

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	美容室（経営者）	来客数の動き	・今年梅雨のため、湿度で髪がまとまらない人が増え、ストレートパーマの数が前年比増加し売上がアップしている。
	○	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・来客数は順調に前年を超えている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・6月の来客数が前年並みに回復している。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・3月から比べると人出は少ない。特に平日は客が少なく、金曜日と土曜日の夜に客が集中している。引き合いに対する提供車両の台数は50%程度にとどまり、車両不足が見受けられる。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・円安と原油価格の高騰が続き、顧客動向の停滞が継続している。また、地方都市のレジャー産業では賃上げの影響もなかなか届きにくく、経費上昇の局面も続いており、難しい状況である。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・物価高騰から地元の客は財布のひもがおおむね固い。一方、インバウンドが日に日に増えている印象を受けるが、一部の店舗を除き、相変わらずその消費意欲をうまく売上に結び付けられていないのが現状である。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・地方経済の個人消費が伸びる要素は可処分所得の増加だと考えている。中小零細企業が多い地方では賃金が上がったとしても微小であり、高齢者の財布のひもは依然固い。貯蓄から投資への動きは円安によって動かず、新NISAの投資先も海外に高い比重が置かれており、思うようには進んでいない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・夏の夜市イベントで街の人流が戻り、開店も増えて新型コロナウイルス感染症発生以前に戻った。しかし、閉店やボーナス後の退職者の送別も多かった。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上が非常に悪いが、外商売上のプラス分で店頭売上のマイナスをカバーしている。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ここ数年の動向にもなるが、季節の変わり目など、通常と違った気温の変化により、衣料品や住居余暇の商品などが大きく影響を受けている。一方で、食料品を中心に堅調に推移している。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・買い回りが進んでいるとみられることから、来店客がなかなか伸びず、前年比を割り続けている。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・4月以降、来客数の減少傾向が続いている。また、消費意欲の減退と物価高騰のなかで節約志向も続いている。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温に左右され、来客数が伸びず前年比を超えられない。値上げによる商品価格高騰で、来店頻度や来客数に影響が出ている。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・商品の原材料価格や光熱費、物流費の上昇が続いている。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は雨も少し多かったが、例年バーゲンセールのあるため、スタートはほぼ同じであり、売上もほぼ横ばい強となっている。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年と比べ5%程度減少している。物価高騰により商品単価が上がり、購入時の商品点数が落ちているため売上が伸びておらず、客の消費意欲の低下がみられる。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・来客数は前年比10%減少しているが、販売単価は物価高の影響で前年比116%となり、売上トータルでは微増となっている。
□	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・賃金はベースアップ等で増えたが、物価高もあるため景気に変化はないという声がある。	
□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今後夏休みに向けてイベント等も予定されており、現状の好調が続くとみられる。	

	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・夏季に入っても来場者数が安定している。
	□	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・販売額に大きな変動はなく、景気は平行線のままである。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高など景気の悪い話題が多いなか、客からは仕方がないといった声が多くある。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・相変わらず建築費は高止まりの状況が続いている。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数は良いようだが、客がなかなか商品を買わない。単価の低下とキャッシュレス化が進み、買い控えが起きている。
	▲	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合他社の販売促進施策の影響により、来客数が前年比減少傾向にある。
	▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・単価の上昇が続き、買上点数の伸びが徐々に落ちてきている。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が減少している。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・下見ばかりの客が増え、即日購入が減っている。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・大手自動車メーカーの不正問題での受注・出荷停止とモデルチェンジによる受注停止車種が多く、苦戦している。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター]（総務部担当部長）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降、売上と来館者数が共に低迷しており、3か月前と比較して状況の悪化がみられる。
	▲	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・中小零細企業が多い地域では、エネルギーコストと諸物価の上昇に賃上げが追い付いていない。宿泊客の動きも伸びが弱い。
	×	一般小売店 [文具店]（経営者）	来客数の動き	・6月に入り、取引先からの受注量が極端に減少した。営業努力を行っているが反応が鈍い。今後夏に向けての新商品の売行きが心配である。また売上が落ちているなか、メーカーへの支払対策を検討中である。
	×	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して販売量は現状を維持していたが、物価高の影響のためか、足元で業務用と家庭用の商品の売上が激減している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・物価高が止まらず、客は衣料品まで予算が回らないのではないかと。来客数も少なく、客単価も以前のように伸びない。当分、地元客相手の商売はWeb販売又はインバウンド相手の商売以外では景気が良くなるのではないかとみられる。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少し、客層も主要なファミリー層から定年後の夫婦などへとシフトしている。特に年金の振り込まれる偶数月にその傾向が顕著であり、客単価も減少している。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（商品統括）	取引先の様子	・明暗がはっきりしつつあるが、設備や人材などの先行投資を行っている冷凍食品製造の他社は、価格改定を進めつつも、販売量を確保し利益を上積みしている。一方、先行投資ができていない企業は価格改定による利益はあるものの、販売量が減少し今後の利益確保が難しい状況である。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に都市部の小売店は夏物商戦が活発であり、加えて観光地のインバウンド需要が旺盛で、地方の小売店の落ち込みをカバーしている。円安による輸入原材料価格の高騰による企業側のマイナス要因や輸入食品の価格上昇による消費者への影響はないようにみられる。商品の値上げ、賃金の引上げをせざるを得ないが、将来的には消費の好循環につながることを期待している。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が緩やかではあるが回復基調になっている。

	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕入価格が高止まりで安定しており、ものが動き出してきたようである。この状況のなか、客は予算を立てているとみられ、企業についても受注が安定し少しずつ伸びてきている。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、夏秋産地の出遅れから果菜類等が例年より高めで推移してきたが、6月中旬に果菜類等の出荷量が急増したため、一転して青果物の卸売価格が下落し、例年を下回る単価となった。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年に入ってから3月より受注量が減少しており、その要因としてエネルギーコストや物流費の高騰があげられる。客もコスト削減のために廉価品を選択し、この傾向は今後も続くと思われる。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船以外の産業用機械関連の受注は3か月前と変わらず低調である。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・良い感じはするが、先行きが不安であることは間違いはない。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・ボランティアや地域のイベントといった活動への参加者数は前年よりは増加しているものの、直近は変動が小さくなってきたとみられる。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の受注状況は堅調である。ただ原材料の仕入価格の上昇や水道光熱費の上昇により経費が増加しており、資金繰りが厳しくなる可能性がある。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は、前年と比べて官民とも受注予定が少ない。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・倒産する企業や業績不振の企業が増えてきている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・物価高騰で消費者の購買意欲に影響が出てくるとみられるが、例えば公共施設のレストラン料金の値上げに関するクレームなどはなく、利用者数にも影響は少ない状況である。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・就職の内定率も高くなっており、数字も良くなっている。
	□	人材派遣会社（総務部長）	採用者数の動き	・採用者数は横ばいだが求職者の不足が続いている。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・どの業界でも人手不足が継続しているが、特に建設業・製造業では人手不足にもかかわらず採用募集に対して応募・反応がないことや、人手不足ではあるが経費が上がり新たに人を採用できないといった状況が続いている。このため、低調なまま横ばいと判断した。
	□	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・新規求職者数は減少しているが、有効求職者数は減少していないため、結果的に3か月前と余り変わらない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—